

## 15-9 カムイユカラ

### 「サロルン ニツネプ (サントイキヤンキリヤン)」 解説

語り手：鍋澤ねぷき  
聞き手・解説：萱野茂

萱野：えーと、私は一羽の鶴でありました。えー、魚を捕って食べておったり、食べたりしておる。そこへ人間が来ると人間をもとって食う。そういう悪さをしておった一羽の鶴でした。

ある日のこと、ずっと向こうの方から物音、声がするので見ると、**arsarus** という、その獰猛な熊がやってきて、この悪い鶴め、お前を叩き殺してやるというわけで襲いかかってきた。

そうしたら、あー、鶴である私、一方の足は陸（おか）の方へ一方の足は水へ浸かるぐらいにしてかまえた。向こうから来る、その **arsarus** という化け熊もそれと同じようなかまえをして、えー、まあ、取っ組みあった。

そうすると、**arsarus** も普通の心臓の、**at** というのは心臓の糸、が六本、鉄で出来た心臓の緒が六本というふうに、もうすごく心臓も丈夫。けれども、その鶴もそのように、**arsarus** もそのような **kane** えー、**sampe an... at** [鉄の心臓の糸] 六本というふうに、鉄で出来た心臓の糸が六本、普通のが六本というふうに持っているので、双方四つに組んで大格闘をしてどっちも死んだと、一羽の鶴が自分で語りましたという。そういう意味だな？ **kamuyyukar** [神謡]。

鍋澤：ん、んだ、んだ、んだ。(笑)